

先進医療技術審査部会からの照会に対する回答

先進医療技術名：腎血管筋脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるものに限る。）

2021年3月5日

所属・氏名：九州大学病院・江藤 正俊

1. 手術時間に121分、190分、301分とばらつきが認められるが、長時間かかった理由は何か。

【回答】

Cryo-tsc-02(30mm), Cryo-tsc-03(37mm)ではCryo-tsc-01(19mm)と比べて腫瘍径が大きくほぼ4cm径（適応径最大）病変であるため凍結針穿刺数が多くなり（Cryo-tsc-01は3本ですがCryo-tsc-02, 03は4本）、凍結範囲も大きくなることから、必然的に腸管などの隣接臓器の障害を避けるためのhydrodissectionが必要となりまして時間を要しました。また、Cryo-tsc-02、Cryo-tsc-03症例の術者（九州大学）は1人で行っているためCryo-tsc-01よりも時間を要したと考えております。

2. Cryo-tsc-01で有害事象として血腫が報告されているが、血腫の部位と広がりほどの程度のものか。また、軽快と判定されているが、その判定根拠を示してください。

【回答】

凍結治療終了時に腎周囲腔に薄く広がる高吸収域を認め、血腫と判定いたしました。治療翌日に行われた合併症確認目的のCTで上記血腫は縮小がみられており、軽快と判定いたしました。

3. Cryo-tsc-02、Cryo-tsc-03で後腹膜出血が認められ、いずれも回復したと判定されていますが、後腹膜出血の広がりがどの程度のものであったのかお示してください。また、回復と判定した根拠を示してください。

【回答】

2症例ともに凍結治療翌日のCTにて、腎周囲腔に限局した薄く広がる後腹膜血腫を認めました。経過のCT（術後3か月目）にて縮小・消失を確認し回復と判断しております。

4. 3例の在院日数、経過中の輸血の有無を教えてください。

【回答】

3例ともに輸血は施行しておりません。

在院日数ですが、Cryo-tsc-01 5日間、Cryo-tsc-02 8日間、Cryo-tsc-03 6日間です。

以上